

麦類及び水稲の6月上旬の巡回調査結果の概要

このことについて、以下のとおりです。病虫害防除指導等の参考にしてください。

麦類

【東北信】調査日 6月1日、2日<調査地点 小麦8地点>

- 1 調査時の小麦の生育は、主に登熟期であった。
- 2 コムギ赤さび病は、東信地域1地点及び北信地域1地点で発生がみられたが、発病度は平年と比べ低かった。
- 3 コムギ黄さび病は、巡回調査地点での発生はみられなかった。
- 4 コムギうどんこ病は、北信地域1地点で発生がみられたが、発病度は平年と比べ低かった。
- 5 コムギ赤かび病は、北信地域1地点で発生がみられ、発病穂率は平年と比べ高かった。

【中南信】調査日 6月1日、2日<調査地点 小麦10地点>

- 1 調査時の小麦の生育は、主に登熟期であった。
- 2 コムギ赤さび病、黄さび病、うどんこ病は、巡回調査地点での発生はみられなかった。
- 3 コムギ赤かび病は、巡回調査地点における100穂調査で発病穂はみられなかった。
また、畦畔見歩きによる達観調査でも確認されなかった。

水稲

【東北信】調査日 6月4日、5日、8日

<東北信地域の巡回調査ほ場：東信15ほ場、北信14ほ場、計29ほ場>

- 1 イネミズゾウムシ
(1) 成虫の確認頭数は、東信地域では平年と比べやや多く、北信地域では平年並であった。
(2) 成虫の被害度(成虫による食害)は、東信地域では平年と比べ低かったが、北信地域では平年と比べやや高かった。
(3) 発生地点率は、東信地域及び北信地域のいずれにおいても、平年と比べ高かった(写真1)。
- 2 イネドロオイムシ(イネクビホソハムシ)
(1) 成虫の確認頭数は、東信地域では平年並であり、北信地域では発生はみられなかった。
(2) 卵塊は、東信地域及び北信地域のいずれにおいても、みられなかった。
(3) イネドロオイムシによる被害は、東信地域及び北信地域のいずれにおいても、発生はみられなかった。



写真1 イネミズゾウムシ成虫

【中南信】 調査日 6月4日、5日、8日、9日

＜中南信地域の巡回調査ほ場：南信 15 ほ場、中信 17 ほ場、計 32 ほ場＞

1 イネミズゾウムシ

- (1) 成虫の確認頭数は、平年と比べ中信地域で平年並み、南信地域でやや少なかった。
- (2) 成虫の食害による被害度は、平年と比べ中信地域でやや高く、南信地域で高かった。
- (3) 成虫の確認地点率は、中信地域、南信地域ともに平年並であった。

2 イネドロオイムシ (イネクビホソハマシ)

巡回調査地点における 25 株調査では、卵塊、成幼虫の寄生及び葉の食害はカウントされなかったが、中信地域の定点（1 地点）では、本田内で卵塊、幼虫及び食害痕が確認された。

3 その他

調査対象ではないが、巡回調査ほ畔のイネ科雑草に斑点米カメムシ類がみられた（写真2）。



写真2 イタリアンライグラスに寄生する
アカスジカスミカメ成虫